

8-4-33 自動運転WG

1. 主な活動の記録

自動運転WGは、自動運転分野に関する最新動向等を収集・整理し、建設コンサルタントとして共通して把握しておくべき事項を建コン協内で共有するとともに、社会課題解決に向け、建コンとして協調して取り組むべき事項等を明らかにすることを目的に活動を行っている。

具体的には、以降に示す調査研究テーマを設定し、それらの調査・整理を通じ、建コンとして取り組むべき課題等を明らかにすることとしている。

その他、自動運転の社会実装先進地域の視察勉強会等を適宜実施している。

2. 実績報告

5回のWGを開催し、技術委員会、情報委員会から選出の計9名（途中1名退任）の委員により、主に以下の活動を行った。

(1) 調査研究テーマの調査推進

a) 官民 ITS 構想・ロードマップの達成状況等

自動運転分野のロードマップを示してきた「官民 ITS 構想・ロードマップ」の達成状況や、それを発展的に継承したデジタル庁の「デジタルを活用した交通社会の未来 2022」等について調査した。

b) 車・センサー・通信・高精度地図の動向

自動運転車の開発状況、使用される通信形態、高精度三次元地図等について調査した。

c) 道路空間・自動運行補助施設等の動向

国交省道路局の「自動運転に対応した道路空間に関する検討会」の動向、道路法改正による「自動運行補助施設」の位置づけ、先読み情報提供や合流支援システム等の路車協調システムの研究の最新動向について調査した。

d) まちづくり・公共交通との関係

国交省都市局の「都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会」等での検討状況を踏まえ、まちづくり・公共交通との関係等について調査した。

e) 地域実装・提供サービスの動向

地域実装、提供サービスの先進事例として、

「限定地域での無人自動運転移動サービス」「遠隔監視のみの無人自動運転移動サービス」等について調査した。

f) 関係する技術開発プロジェクト等の動向

自動運転分野の国の研究開発プロジェクトである内閣府 SIP-adus、NEXCO における関連重点プロジェクト、空飛ぶクルマについては「空の移動革命に向けた官民協議会」に関する動向等について調査した。

(2) 茨城県境町自動運転バスの視察

上記 e) で整理した地域実装の先進事例のうち、自治体として国内初の自動運転バスの定常運行（レベル 2）を開始した茨城県境町の視察（体験乗車、遠隔監視施設の視察、運営関係者との意見交換等）を行った（境町観光協会の視察・研修プログラムを利用）。

(3) 今年度活動実績

前年度に続きコロナ禍が継続する中、WG 活動は原則 Web 会議にて行った。

第 1 回 WG 令和 4 年 4 月 12 日（火）

第 2 回 WG 令和 4 年 5 月 26 日（木）

（境町自動運転バス視察併催）

第 3 回 WG 令和 4 年 6 月 16 日（木）

第 4 回 WG 令和 4 年 8 月 25 日（木）

第 5 回 WG 令和 5 年 3 月 16 日（木）

3. 次年度の活動について

(1) 調査研究テーマの調査推進

各テーマについて令和 4 年度までの調査分について考察（課題、建設コンサルタントの役割等）を加えとりまとめる。なお、変化の著しい本分野の特性に鑑み、各テーマの最新情報への更新を引き続き行いつつ、未調査のテーマについて調査を拡大する。

(2) 視察勉強会、有識者講習会等の開催

先進事例などの視察勉強会を引き続き行い、地域実装の課題やその解決方法、成功への鍵などを探る。また、有識者等による講習会も行い、自動運転分野における最新動向の把握や、調査研究テーマのとりまとめにおける補遺とする。

（自動運転WG WG 長 市川 博一）